

令和6年11月28日
山梨県 観光文化・スポーツ部
文化振興・文化財課 課長 井筒 慎太郎
電話 055-223-1790 (内 8500)

報道関係者各位

デザイン先進県実現に向け
『山梨デザインセンター』オープン
政策、地域づくりと産業支援にも活用

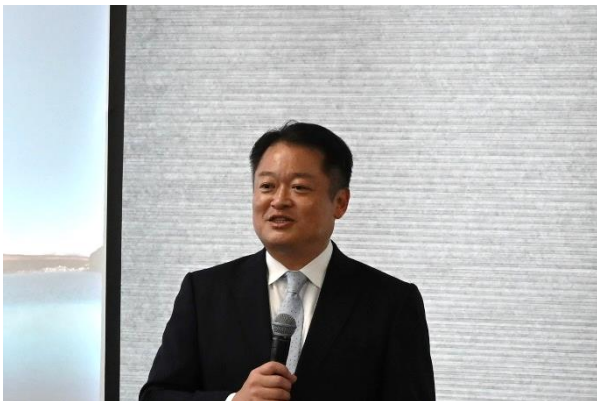
山梨県は11月20日(水)、デザイン推進の新たな拠点として「山梨デザインセンター」を甲府市の県庁舎にある防災新館2階に開設しました。同センターは、県立美術館(同市貢川)の付属施設として設置する全国で初めての試みで、デザインの力で地域活性化や社会課題の解決を図ることを目的としています。

20日に開催したオープニングイベントでは、主催者挨拶やトークセッションが行われ、関係者など100人が出席しました。



■「デザイン先進県」の実現にむけたセンターの役割とは？

オープニングイベントで、長崎幸太郎知事は「デザインの持つ力を最大限に生かし、デザイン先進県の実現に向け、しなやかな発想で取り組む」と決意を述べました。また、県立美術館の青柳館長は「山梨県は東京を支える場所としてのポテンシャルがあり、本来の力を発揮するにはデザインの力が重要だ」と話しました。



▲主催者挨拶をする長崎幸太郎山梨県知事



▲主催者挨拶をする県立美術館館長 青柳正規氏

■「デザインとは何か」

オープニングイベントの第2部では、チーフ・デザイン・オフィサー（CDO）でセンター長を務める多摩美術大学の永井一史教授、デザインディレクター（DD）の深澤直人副学長（同）、柴田文江教授（同）、「継承される地域」のデザインに取り組む会社 Q0（キューゼロ・東京都千代田区）の林千晶社長の4名によるトークセッションが行われました。

ファシリテーターを務める永井氏は、デザインについて「デザインの真理を一言で言うのは難しい」と話した上で、登壇者それぞれのデザイン観について聞きました。

深澤氏は、デザインの定義を「人と環境の関係を最適化すること」、柴田氏は「人が人間らしく生きるための知恵」と語りました。また、林氏は戦前の哲学者であるハンナ・アーレントの「人間は何のために生まれるのか。それは新しいものを生み出すためだ」という言葉を引用しつつ、「デザインとは新しい挑戦をすることと、時代の感覚を取り入れること」と話し、デザイン先進県の実現に向けて、それぞれの“デザイン”に対する思いを明らかにしました。



▲CDO兼デザインセンター長の永井一史氏



▲デザインディレクターの深澤直人氏



▲デザインディレクターの柴田文江氏



▲デザインディレクターの林千晶氏

■今後の展望

永井氏からは「目標はデザインので山梨をしなやかに美しくすること。行政とデザインの融合を目指し、山梨県をモデルケースとして全国展開していきたい」と抱負を述べました。

深澤氏は「山梨県を、全ての人々が共感し憧れるユートピアにすることが今私に与えられたミッション」、柴田氏は「デザインは大きなうねりを作る力を持っている。デザインの専門家としてそれが間違いないよう方向を見据える役目」、林氏は「地域を支えるデザインの観点から、点在するローカルプレイヤーの活動したい」とし、意気込みを語りました。

■「山梨デザインセンター」とは



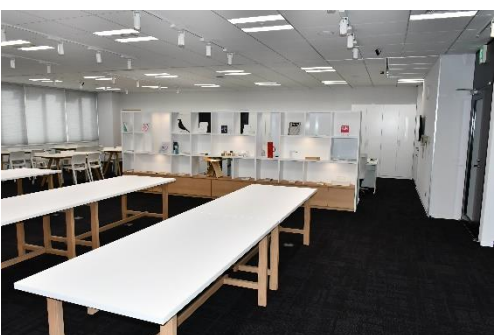
山梨デザインセンターは、洗練されたデザインによる地場産品の商品開発やプロモーション支援を行うほか、多摩美術大などさまざまな機関と連携してデザインを学ぶ講座を開き、子どもから大人まで幅広い層にデザイン思考の浸透を図っていきます。また、デザイナー、アーティスト、クリエイターなどのネットワーク構築の拠点として機能させ、政策立案へのアドバイス、地域アイデンティティの創出などに貢献していきます。

また、同センターはデザインを通して、イノベーションやコミュニケーション、そしてプレゼンテーションが生まれる場所となるように、素材や品質、ディテールにこだわり、シンプルで落ち着いた空間として構成され、山梨におけるデザイン活動のハブになる拠点としてデザインされています。



・コミュニティスペース

デザイナーやクリエイター同士が交流できる場として活用できます。また、デザイン分野のセミナーやワークショップの場としても活用できます。



・展示スペース

組み立て式展示台によって、デザイナーやクリエイターがいつでも作品を展示・発表できる場として機能します。

※山梨デザインセンター全体で 163 平方メートル
(内、コミュニケーション・展示スペース 125 平方メートル)

■山梨県デザインセンター公式サイト
<https://ydc.pref.yamanashi.jp/>